

(1) 怪天鬼は、コーケッテンゼンの屋敷へと踏み込みました。「ウハハハハ カーンラカラカラ ホータイ大名のケライ共、出てこい。怪天鬼が相手になってやるぞ」しかし誰も出てきません。

(2) 「それではひと筆書き残していってやろう」怪天鬼は筆をとると、壁に「怪天鬼、ここを去る。ただし、二日のちには役人がくるであろう。その時にまた会おう」と書き、その場を去りました。

(3) しばらくして、隠れていたホータイ大名の家来達が出てきました。「トノ、怪天鬼にはトテモかないません。しかたがないからかくれていました。おや、何か書いてあるぞ」壁には

(4) 「二日のちに役人がくる」と書いてあります。「こまったな、役人に会えば、このホータイが証拠になる」すると東ベエが

(5) 「トノ、大丈夫です。ここに赤血丸が三ツブのこっています。これを飲めば別の顔になります。役人をおどかしてやるのです」「うむ」

(6) こちらは、人殺しの犯人を探していた小天狗です。キズの手あてをすると、ヨリキの岡野のところへ来ました。「ホータイ大名こそ、人殺しの犯人です」

(7) 「フーム、すると、辻斬りもバラバラ死ガイもみな、うみくずれたみにくい顔のホータイ大名のしわざだというのか。よし、さっそく老中に話して取り調べよう」

(8) 次の日、岡野は老中の許しを得てホータイ大名のヤシキへ来ました。「ホータイ大名の取り調べに参った。ホータイすがたでもかまわぬ、わしが直々にあうぞ」「はッ」

(9) 岡野はオクのヒトマへ通されました。「ホータイ大名め、出てくるかな」果たして…